

ライセンス認証(アクティベーション) 実装ソリューション

- ◆ 認証 Web サービス
- ◆ 認証管理アプリケーション
- ◆ 配布アプリケーション用認証ライブラリ(DLL)

認証レスキュー!.NET

前製品からの移行ガイド

(3.0.0)



NEWTONE
株式会社ニュートン

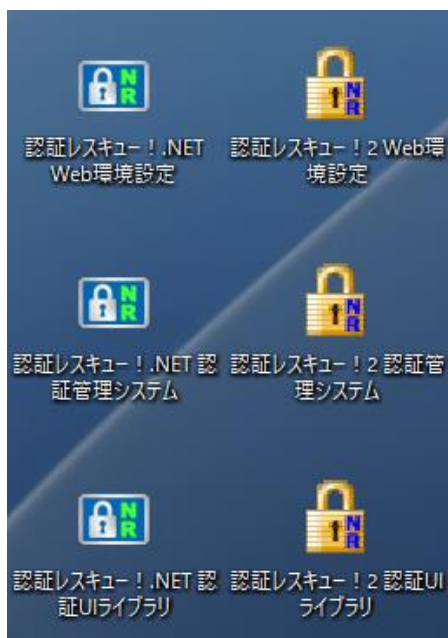
- 目次 -

●概要.....	3
●認証レスキュー！.NET と前製品との比較表(主な相違点のみ).....	4
●前製品(認証レスキュー！2)からの移行手順.....	5
1.データベースのコンバート.....	5
2.認証 UI ライブラリ(DLL)を使用していた Visual Studio のプロジェクトソースの変更.....	8
■プロジェクトのターゲットフレームワークの変更.....	8
■プロジェクトの DLL 参照の変更.....	8
■インスタンス化するクラス名の変更.....	9
■Web サービスの名称の変更.....	9
■メソッドの戻り値の変更.....	10
■削除されたプロパティ.....	11
■Error 列挙体の内容の変更.....	12
(1)APIError 列挙体(カスタム UI 系).....	12
(2)APIxError 列挙体 (ASP.NET 系).....	12
3.追加されたプロパティとメソッド【参考】.....	13
4.追加された Error 列挙体【参考】.....	14

●概要

このガイドは、前製品「認証レスキュー！2」をご利用のお客様が、新製品「認証レスキュー！.NET」へ移行するための手順書です。

なお、前製品「認証レスキュー！2」と新製品「認証レスキュー！.NET」は同一 PC に共存インストールが可能です。



● 認証レスキュー！.NET と前製品との比較表（主な相違点のみ）

比較項目		New! 認証レスキュー！.NET	(前製品) 認証レスキュー！2	
機能	フローティングライセンス機能	○	×	
	無効 NIC 無視によるライセンス認証時の通信速度の高速化の指定	○	×	
	エンドユーザが認証した「PC 名」項目の取得 (認証管理システムの「認証状況」、「ログの表示」およびフローティングライセンスの使用 PC 名表示など)	○	×	
	レンタル機能	×	○	
	Web インストーラの IIS 自動有効機能	○	×	
	認証 UI ライブラリの種別	既定 UI 機能+カスタム UI 機能	基本パック: 既定 UI 機能のみ 基本パック+API: 既定 UI 機能+カスタム UI 機能	
	配布用 DLL	.NET6、7、8 対応	○	×
		.NET Framework 4.5~4.8	○	○
		VB.NET、C#対応	○	○
		VB6.0 対応、Visual C++対応	×	○
製品体系	登録ライセンス	無償(廃止)	有償 1,000~無制限ライセンス	
	クラウド: Mivrosoft Azure 対応	Azure 仮想マシンのみ	Azure 仮想マシン Web アプリ	
	データベースのバージョン	SQL Server 2014 Express SP4	SQL Server 2012 Express SP1	
	ユーザズガイド	○	○	
	クイック体験ガイド	○	×	
	前製品からの移行ガイド	○	×	
	SQL Server の英語版のインストール	×	○	
	製品サポート(E-Mail)	・1年目は製品に付属 ・1年目以降の1年間は更新ライセンス要 (オプション)	・30日無償、以降は60日有償 または1年間有償 (オプション)	
製品更新モジュールのダウンロード権	・1年目は製品に付属 ・1年目以降の1年間は更新ライセンス要(オプション)	・無償		

●前製品(認証レスキュー！2)からの移行手順

ここでは、前製品(認証レスキュー！2)をご利用のお客様が、本製品(認証レスキュー！.NET)に移行する際の手順を説明しています。

以降の手順説明では、既に認証レスキュー！.NETがインストールされていることが前提です。

1.データベースのコンバート

まず、最初に貴社が「認証レスキュー！2」で使用していたデータベースを、「認証レスキュー！.NET」で使用できるようにコンバートを行います。

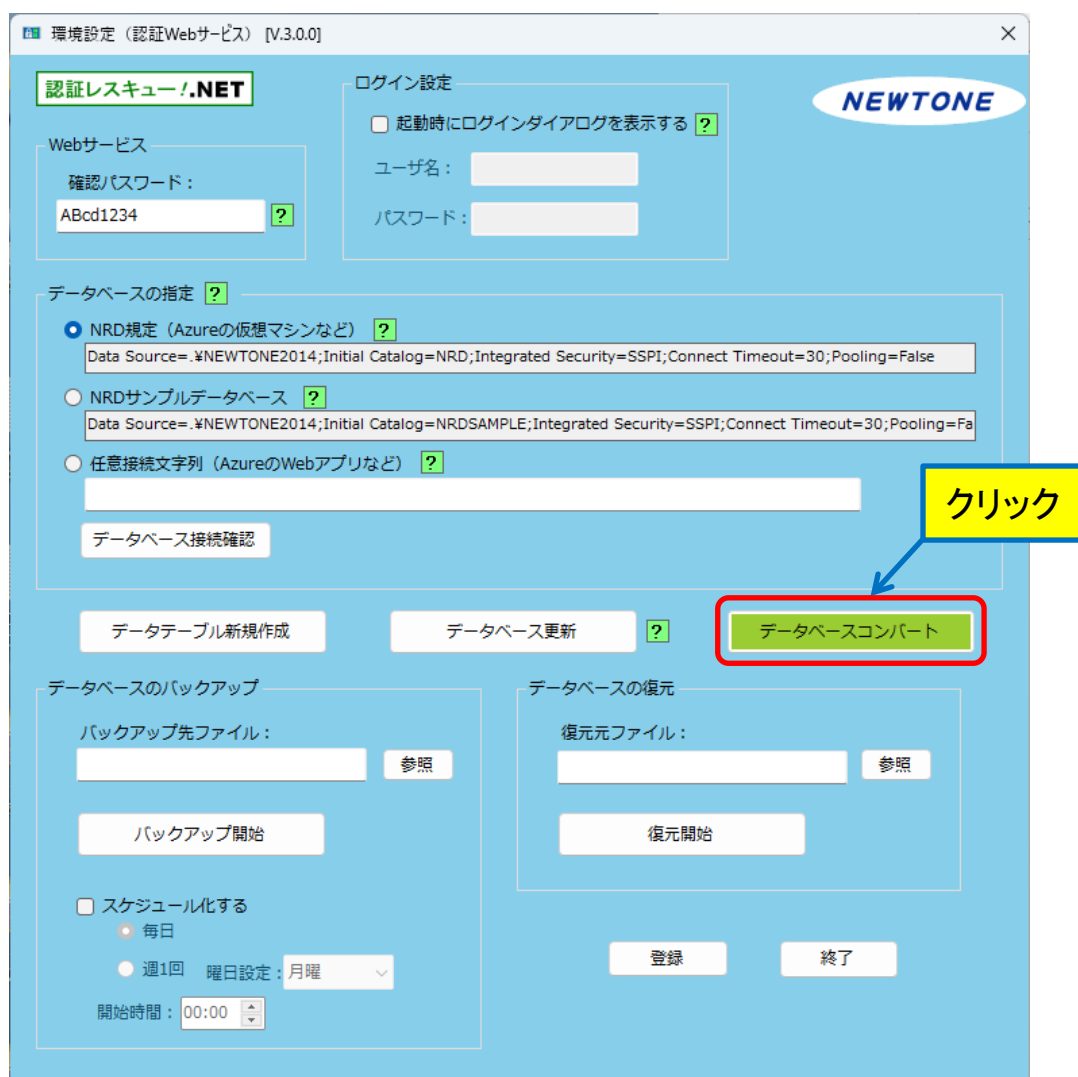
※コンバートを実行しても、「認証レスキュー！2」のデータベースは、そのまま残ります。

デスクトップ上の「認証レスキュー！.NET We 環境設定」へのショートカットを起動すると次の画面が表示されます。

この実行ファイルは、インストール先がデフォルトなら、

<32bitOS の場合> C:\Program Files\Newtone\NRD\NRDWeb\WebAdmin.exe、

<64bitOS の場合> C:\Program Files (x86)\Newtone\NRD\NRDWeb\WebAdmin.exe です。



「データベースコンバート」ボタンを押します。データベースコンバート処理の画面が表示されます。

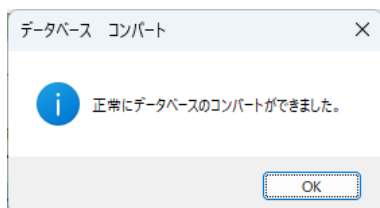
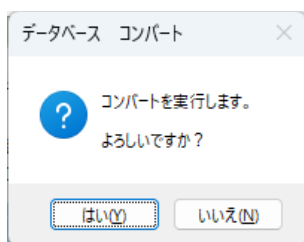


この画面の①で、移行元の認証レスキュー！2のデータベースを選択してください。
次に②で移行先の認証レスキュー！.NETのデータベースを選択してください。

<ご注意>

②の移行先の認証レスキュー！.NETのテーブルが既に存在する場合、削除されます。
また、「プロダクトID」と「シリアル No.」の桁数は移行元の「認証レスキュー！2」の桁数となります。

「コンバートを実行」ボタンを押します。
確認メッセージが表示されますので、「はい」を押します。



「OK」ボタンを押し、「終了」ボタンを押してデータベースコンバート処理を終了します。

次に環境設定画面で、「登録」ボタンを押し、情報を Web サービスフォルダに保存してください。

The screenshot shows a web interface for database restoration. At the top, there are two buttons: 'データベース更新' (Database Update) with a green question mark icon, and 'データベースコンバート' (Database Convert) in a green box. Below this is a section titled 'データベースの復元' (Database Restoration). It contains a text input field for '復元元ファイル:' (Original file) with a '参照' (Reference) button to its right. Below the input field is a '復元開始' (Start Restoration) button. A yellow box with the text 'クリック' (Click) and a blue arrow points to this button. At the bottom of the restoration section, there are two buttons: '登録' (Register) which is highlighted with a red border, and '終了' (End). The entire interface is set against a light blue background.

2. 認証 UI ライブラリ(DLL)を使用していた Visual Studio のプロジェクトソースの変更

本製品(認証レスキュー！.NET)の DLL は、前製品(認証レスキュー！2)との間で一部を除いて高い上位互換性があります。

前製品(認証レスキュー！2)の DLL を使用していたプロジェクトソースコードは、ほぼそのまま、本製品(認証レスキュー！.NET)の DLL でも利用できますが、変更が必要な箇所もあります。

以下で、その変更が必要な部分を記載します。

■プロジェクトのターゲットフレームワークの変更

ターゲットフレームワークを.NET Framework 4.5~4.8(必要時は.NET6~8)に設定してください。

■プロジェクトの DLL 参照の変更

プロジェクトの参照から、前製品(認証レスキュー！2)の Newtone.NR.dll を削除し、本製品(認証レスキュー！.NET)の Newtone.NR.FW45.dll (.NET Framework 4.5 ~ 4.8 の場合)、または Newtone.NR.NET6.dll (.NET6~8 の場合)を追加してください。

本製品(認証レスキュー！.NET)の DLL (Newtone.NR.FW45.dll、Newtone.NR.NET6.dll、Newtone.NR.ASPNET.dll)は、インストール先がデフォルトなら、

<32bitOS の場合> C:\Program Files\Newtone\NRD\NRDDLL\NRDLL

<64bitOS の場合> C:\Program Files (x86)\Newtone\NRD\NRDDLL\NRDLL

にありますので、必要に応じて貴社の任意フォルダにコピー後、参照を追加してください。

以下に、新旧の DLL の名称を示します。

名称	認証レスキュー！.NET	認証レスキュー！2(前製品)
Framework4.5 用 認証 UI ライブラリ(DLL)	Newtone.NR.FW45.dll	Newtone.NR.dll
.NET6 用 認証 UI ライブラリ(DLL)	Newtone.NR.NET6.dll	なし
ASP.NET 系 認証 UI ライブラリ(DLL)	Newtone.NR.ASPNET.dll	

■インスタンス化するクラス名の変更

次のように変更してください。

Framework4.5 用

<VB.NET>

```
Public Shared myActivate As Newtone.NR.Activation = New Newtone.NR.Activation()
↓
Public Shared myActivate As Newtone.NR.FW45.NRD_Activation = New Newtone.NR.FW45.NRD_Activation()
```

<C#>

```
public static Newtone.NR.Activation myActivate = new Newtone.NR.Activation();
↓
public static Newtone.NR.FW45.NRD_Activation myActivate = new Newtone.NR.FW45.NRD_Activation();
```

.NET6 用

<VB.NET>

```
Public Shared myActivate As Newtone.NR.Activation = New Newtone.NR.Activation()
↓
Public Shared myActivate As Newtone.NR.NET6.NRD_Activation = New Newtone.NR.NET6.NRD_Activation()
```

<C#>

```
public static Newtone.NR.Activation myActivate = new Newtone.NR.Activation();
↓
public static Newtone.NR.NET6.NRD_Activation myActivate = new Newtone.NR.NET6.NRD_Activation();
```

■Web サービスの名称の変更

Webサービスのアプリ名(エイリアス)が、「NR2WebService」から、「NRDWebService」に変わりました。

次のように、WebサービスURLを変更してください。

<VB.NET>

```
Class1.myActivate.WebServiceURL = "http://localhost/NR2WebService/Service.asmx"
↓
Class1.myActivate.WebServiceURL = "http://localhost/NRDWebService/Service.asmx"
```

<C#>

```
Class1.myActivate.WebServiceURL = "http://localhost/NR2WebService/Service.asmx";
↓
Class1.myActivate.WebServiceURL = "http://localhost/NRDWebService/Service.asmx";
```

■メソッドの戻り値の変更

次のメソッドの戻り値が変更されました。必要に応じて変更、または対応してください。

- ActivateStatusCheck メソッド(既定 UI 系)
- APIActivateStatusCheck メソッド(カスタム UI 系)
- APIActivateStatusCheck2 メソッド(カスタム UI 系)

<変更内容>

①「レンタル機能」が削除されたため 1000、1001～2100、2101 は戻り値として返しません。

次の②～④は、関連の既存コードで想定外の戻り値を考慮していた場合は必須ではありません。しかし、フローティングライセンスなどの新機能を将来的に利用する可能性があれば、②～④もコードに追加しておくことをお勧めします。

- ②「600: フローティングライセンス登録済み」が追加されました。
- ③「-210012310 ~ -200001010: フローティングライセンス登録済で終了した有効期限 (2000/01/01～2100/12/31)」が追加されました。
- ④「200001010 ~ 210012310: フローティングライセンス登録済で、まだ有効な有効期限 (2000/01/01～2100/12/31)」が追加されました。

次のメソッドの戻り値が変更されました。必要に応じて変更、または対応してください。

- ActivateStatusCheckOnline メソッド(既定 UI 系)
- APIActivateStatusCheckOnline メソッド(カスタム UI 系)
- APIActivateStatusCheckOnline2 メソッド(カスタム UI 系)

<変更内容>

①「レンタル機能」が削除のため 5 は戻り値として返しません。

次の②と③は、関連の既存コードで想定外の戻り値を考慮していた場合は必須ではありません。しかし、フローティングライセンスなどの新機能を将来的に利用する可能性があれば、②、③もコードに追加しておくことをお勧めします。

- ②「600: フローティングライセンス登録済み」が追加されました。
- ③「-13: 接続できない(フローティングライセンス)」が追加されました。

■削除されたプロパティ

レンタル機能が削除された関連で、次のプロパティが削除されましたので、コードを削除、または変更してください。

- ①RentalPeriod プロパティ
(レンタル日数(デフォルト:0日、設定可能範囲:1~1100))
- ②RentalPeriodName プロパティ
(レンタル期間の名称(デフォルト:"レンタル"))

【参考】「認証管理システム」での変更について

前製品(認証レスキュー！2)の「認証管理システム」の環境設定で、「レンタル機能を使用する」のチェックが削除されました。

環境設定 (認証管理システム)

Webサービス

URL: /localhost/NR2WebService/Service.asmx ?

確認パスワード: ABcd1234 ?

タイムアウト: 60 秒 ?

基本認証を使用する ?

ユーザー名:

パスワード:

Webサービス接続確認

プロキシサーバー

プロキシサーバーを使用する ?

アドレス: (例: xxxxxxxx.xxxxxxx)

ポート: (例: 8080)

ユーザー名: (必要時)

パスワード: (必要時)

ログイン時にログインダイアログを表示する ?

ユーザー名:

パスワード:

レンタル機能を使用する (重要) ?

登録 終了

■Error 列挙体の内容の変更

次の Error 列挙体の内容が変更されました。値の変更はありませんが、欠番になっているものがあります。欠番になっているものは前製品(認証レスキュー！2)用であり、本製品(認証レスキュー！.NET)ではその値は使われません。前製品用のコードが今回から欠番になった値を判断として使用していても、結果としてそのコードを通らないため、問題はありません。

(1)APIError 列挙体(カスタム UI 系)

メンバ名	値	内容
BadWaiFile	113	WebServEnv.wai ファイルに問題があります。 認証 Web サービス実行 PC 上で「認証レスキュー！2 Web 環境設定」(WebAdmin.exe)が行われていない可能性があります。

↓変更

メンバ名	値	内容
BadWaiFile	113	WebServEnvNRD.wai ファイルに問題があります。 認証 Web サービス実行 PC 上で「認証レスキュー！.NET Web 環境設定」(WebAdmin.exe)が行われていない可能性があります。

メンバ名	値	内容
NotRetrievedTotalLicense	114	EU 認証済みライセンス総数が取得できませんでした。

↓変更

メンバ名	値	内容
欠番	114	旧登録ライセンス関連

メンバ名	値	内容
BadNRRegistrationLicense	115	NR 登録ライセンスに問題があります。 弊社までご連絡ください。

↓変更

メンバ名	値	内容
欠番	115	旧登録ライセンス関連

(2)APIxError 列挙体 (ASP.NET 系)

メンバ名	値	内容
BadWaiFile	113	WebServEnv.wai ファイルに問題があります。 認証 Web サービス実行 PC 上で「認証レスキュー！2 Web 環境設定」(WebAdmin.exe)が行われていない可能性があります。

↓変更

メンバ名	値	内容
BadWaiFile	113	WebServEnvNRD.wai ファイルに問題があります。 認証 Web サービス実行 PC 上で「認証レスキュー！.NET Web 環境設定」(WebAdmin.exe)が行われていない可能性があります。

3.追加されたプロパティとメソッド【参考】

次のプロパティおよびメソッドが新たに追加されました。

設定方法につきましては、認証レスキュー！.NET のユーザーズガイドおよび附属サンプルプロジェクトをご参照ください。

・【既定 UI 系】

<プロパティ>

■DisabledNICIgnore プロパティ(無効になっている NIC を無視する(高速化を図る)(デフォルト: True))

<メソッド>

- FloatingLicenseStart メソッド(フローティングライセンス使用開始)
- FloatingLicenseFinish メソッド(フローティングライセンス使用終了)
- ActivateStatusOnlineVerify メソッド(認証状況オンライン表示)
- TrialStartDateRemove メソッド(「猶予日数」の「開始日」を削除)
- RunNRDAppDateRemove メソッド(「アプリ起動日」を削除)

・【カスタム UI 系】

<プロパティ>

- APIDisabledNICIgnore プロパティ(無効になっている NIC を無視する(高速化を図る)(デフォルト: True))
- APIFloatingLicenseMaxCount プロパティ(フローティングライセンス上限数)※①
- APIFloatingLicenseUsedCount プロパティ(フローティングライセンス使用数)※②
- APIFloatingLicenseState プロパティ(フローティングライセンス状況(0:未登録 1:登録済 2:使用中))※③
- APIFloatingLicenseDataInfo プロパティ(フローティングライセンスの製品 ID とシリアル No.に該当する認証データの「PC 名」カンマ「認証 ID」の文字列(取得専用))※④

※①②③④について

・取得専用

・APIActivateStatusOnlineVerify メソッド(認証状況オンライン表示)の呼び出し時のみ有効

<メソッド>

- APIFloatingLicenseRegister メソッド(フローティングライセンス登録)
- APIFloatingLicenseStart メソッド(フローティングライセンス使用開始)
- APIFloatingLicenseFinish メソッド(フローティングライセンス使用終了)
- APIFloatingLicenseCancel メソッド(フローティングライセンス解除)
- APIActivateStatusOnlineVerify メソッド(認証状況オンライン表示)

・【ASP.NET 系】

<プロパティ>

- APIxUseFloatingLicense プロパティ(フローティングライセンス利用の有無(False:利用しない、True:利用する))
- APIxDisabledNICIgnore プロパティ(無効になっている NIC を無視する(高速化を図る)(デフォルト: True))

4.追加された Error 列挙体 【参考】

次の Error 列挙体が追加されました。

・APIError 列挙体 【カスタム UI 系】

メンバ名	値	内容
ProductIDAndSerialNoIsFloatingLicense	187	そのプロダクトID + シリアル No.は、フローティングライセンスのため、この処理は無効です。
ReturnValueNotFound	188	メソッドの値が見つかりません。
CanNotUseWithTrial	189	猶予(試用)でご利用の場合は、この処理はできません。
FailedReadRegistrydata	190	レジストリデータの読み込みで失敗しました。
AlreadyFloatingLicenseRegistered	191	フローティングライセンス登録済のため、この処理は無効です。
FloatingLicenseRegistrationFailed	192	フローティングライセンス登録が失敗しました。
CanNotUseFloatingLicense	193	指定されたプロダクトID とシリアルNo.は、フローティングライセンスは使用できません。
FloatingLicenseUnauthenticatedByTrialPeriodOut	194	フローティングライセンス登録されていないため、この処理は無効です。
FloatingLicenseUnauthenticatedByTrialPeriod	195	フローティングライセンス登録されていないため、この処理は無効です。
FloatingLicenseUnauthenticated	196	フローティングライセンス登録されていないため、この処理は無効です。
FloatingLicenseInUse	197	フローティングライセンス終了処理を行ってから再度、当処理を実行してください。
FloatingLicenseCancellationFailed	198	フローティングライセンス解除が失敗しました。
ExpirationDateHasExpired	199	有効期限が切れているため、この処理は無効です。
AlreadyFloatingLicenseStarted	200	既にフローティングライセンスが開始されています。
LicenseKeysDifferent	201	フローティングライセンスで登録した「ライセンスキー」がデータベースと違います。フローティングライセンス解除を行い、もう一度フローティングライセンス登録を行ってからこの処理を行ってください。
ExpirationDateIsDifferent	202	フローティングライセンスで登録した「有効期限」がデータベースと違います。フローティングライセンス解除を行い、もう一度フローティングライセンス登録を行ってからこの処理を行ってください。
FailedToCancelFloatingLicense	203	何らかの原因でフローティングライセンスを解除できませんでした。
FailedToStartFloatingLicense	204	何らかの原因でフローティングライセンスを開始できませんでした。
FloatingLicenseNotStarted	205	フローティングライセンスが開始されていないため、この処理は無効です。
RegisteredProductIDAndSerialNoIsNotFound	206	レジストリに登録されているプロダクトID+シリアル No.に該当する認証キーデータが存在しません。
FailedToFinishFloatingLicense	207	何らかの原因でフローティングライセンスを終了できませんでした。
FailedToRegisterFloatingLicense	208	何らかの原因でフローティングライセンスを登録できませんでした。
ErrorCallingWebServiceMethod	209	Web サービスのメソッド呼び出しでエラーが発生しました。
ErrorInWebServiceMethod	210	Web サービスのメソッド内でエラーが発生しました。

「認証レスキュー！.NET」前製品からの移行ガイド（3.0.0）

2024年4月10日 初版発行

NEWTONE
株式会社ニュートン

著者 株式会社ニュートン
発行所 株式会社ニュートン
新潟県長岡市本町 2-2-15 シャングリラ本町 1F
www.newtone.co.jp

Copyright © Newtone Corporation

本書は、法律に定めのある場合または権利者の承諾のある場合を除いて、いかなる方法においても複製・複写することはできません。